

人の心の痛みを感じよう

あさぎり町立免田中学校 一年 岩崎 眞也

ぼくが、人権という言葉聞いて一番最初に考える事は、いじめという行為の人権侵害です。今、新聞やテレビ等で、たくさんの人達が自殺という行為で、たった一つしかない大切な命を失っているという事をよく聞きます。

その中で、学生の自殺も増えてきていて、その原因は「いじめを苦しめたもの」がほとんどのようです。

ぼくはそんなニュースを聞く度に、悲しい気持ちになります。なぜなら、ぼくにとってそれは、とても他人事とは思えないからです。

ぼくも、小さい頃からこれまでに、いじめられる事が度々ありました。物を隠されたり、壊されたり、顔や体の事を悪く言われたり、わけもなく毛嫌いされたりと、本当に色々な事がありました。

でもぼくには、なぜそんな事をするのか、そんな事をして一体何が楽しいのか、その気持ちも今でも全く分かりません。

ただ、人に悪い事をしたら、いつかは必ず自分に返ってくると思うし、いじめた人からは、いつまでも憎まれるし、何よりも、人に信じてもらえなくなるとぼくは思うのです。

ぼくは、小さい頃から母に、「人の心の痛みが分かる人間になりなさい。」

「自分が言われたら嫌な事、されたら嫌な事は、絶対に人にしてはいけない。」

「人の顔や身体の事を言われてはいけない。」

と、この三つの事を言われて育ちました。

幼い頃は「心の痛み」という事がどういう意味なのか、よく分かりませんでした。でも今では、その意味が実際によく分かれます。だからぼくは、自殺していった人達の心の痛みも、よく分かるのです。

その共感できる所とは、ものすごく苦しくて、悲しくて、つらいという所です。そしてそれよりも、もっと苦しいのは、このつらい時に孤独で、支える人が誰もいないという事です。でも逆に、支えてくれる家族や友達等だれかが一人でも側にいて話を聞いてくれるなら、きっと乗り越える

事もできるはずなのです。

ぼくは、そうして今までのいじめを耐えてきました。

つらい時は、気持ちをためこまずに、信頼できる人に打ち明ける勇気を持つ事も大事だと思います。

ぼくの側には真剣に話しを聞いてくれ、支えて勇気づけてくれる家族や先生がいてくれて、本当に良かったと思います。

また、ぼくには、つらい時に聴いて励まされた歌があります。

その歌詞の中に、

「つらい時、つらいと言えたらいいのになあ。ぼく達は強がって笑う弱虫だ。さびしいのに平気なふりをしてるのは、くずれ落ちてしまいそうな自分を守るためのさ。ぼくだけじゃないはずさ。

行き場のないこの気持ちを居場所の無いこの孤独を抱えているのは。」

という所があり、この時はまだ、つらい気持ちを誰にも言えない時だったので心に響き、

「もう二度とほんとの笑顔をとり戻す事、できないかもしれないと思う夜もあつたけど、大切な人

達の温かさに支えられ、もう一度信じてみようかなと思えました。」

の所は、気持ちを打ち明けた後に聴いて、ぼくの今の思いと一緒だと思いました。

それから、つらい事があるとこの曲をかけて歌い、自分を勇気づけるようにしています。

人の中には、

「いじめられる側にも問題がある。」

と言う人もいます。でもぼくは、それは間違っていると思います。

「いじめられても仕方がない。」

という事は絶対にあつてはならない事で、いじめが認められる事は、どんな場合でも許されない事だと思っています。

身体に受けた傷や痛みは、いつかは消えるけれど、心に受けた傷や痛みは、一生残り、傷つけた

本人は忘れても、傷つけられた人は一生忘れる事はないのです。

でも、もしもいつか、ぼくの事を苦しめた人達の心が痛んで、同じ痛みをわかってくれた時、ぼ

くは許してあげられるかもしれません。

なぜなら、成長したぼくに加えられた四つ目の母の願いが、

「人を許す心も持つてほしい。」

という事だからです。

これから先もずっとぼくは、この四つの教えを胸に刻んで、進んで行きたいと思っています。